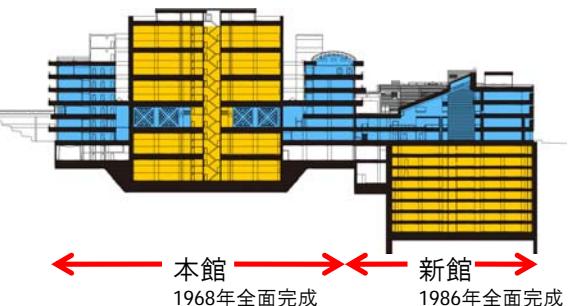


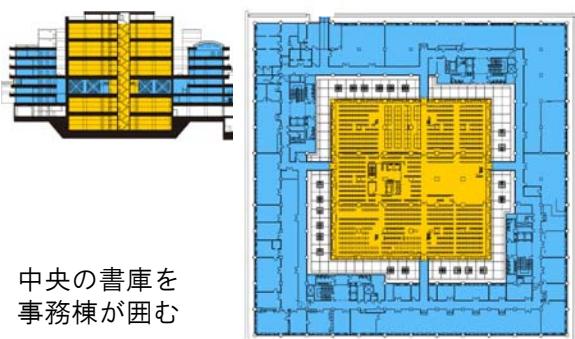
平成24年12月20日
第23回保存フォーラム
「地震に対する図書館の備え
－良かったこと、分かったこと－」
事例報告 国立国会図書館東京本館

収集書誌部 資料保存課
松井 一子

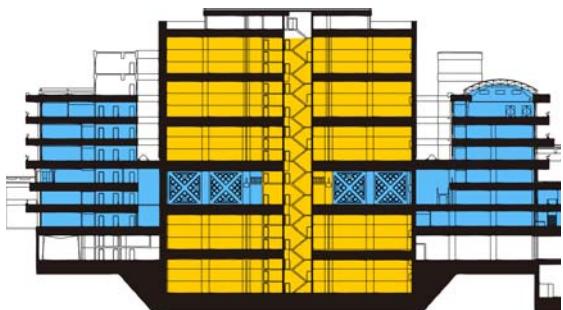
東京本館（東京都千代田区）



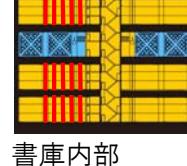
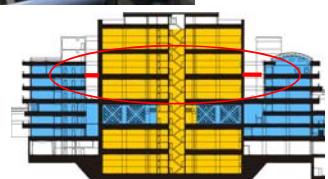
東京本館 本館



東京本館 本館 積層式書庫



耐震改修工事



書庫内部





ブックサポートの使用



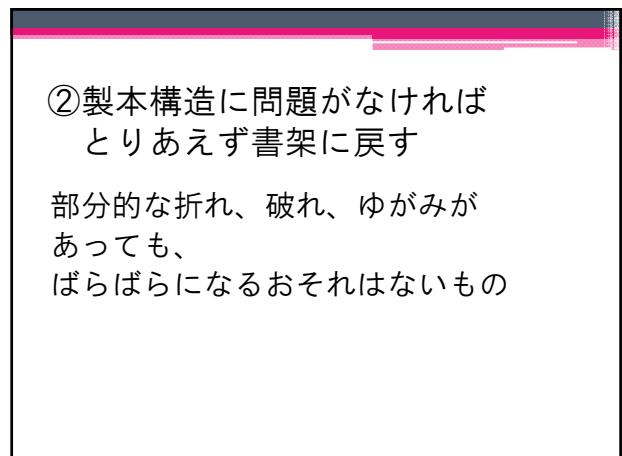
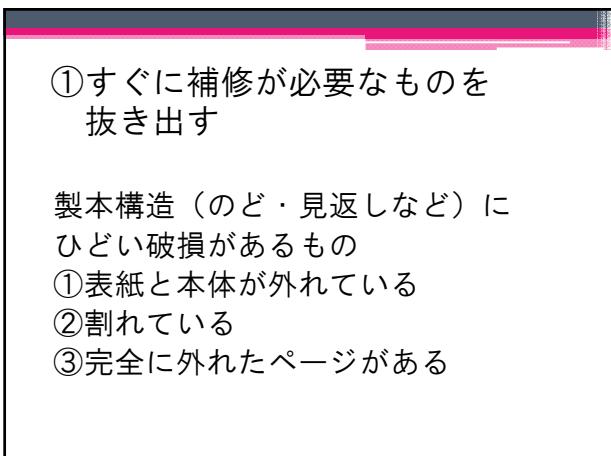
書架の並び

階層	資料の概要	落下率	落下数 (概数)
17層	和図書(昭和63年～平成7年受入れ)、電話帳	ほぼすべて	53万冊
16層	和図書(平成8年～平成14年受入れ)	80%	50万冊
14～15層	洋図書 (昭和43年以降受入れ)	70%	53万冊
13層	和図書(平成15年～平成19年受入れ)	30%	19万冊
12層	和図書 (平成20年以降受入れ)	10%	3万6千冊



復旧作業

- ①落下した資料から、すぐに補修が必要なものを抜き出す
- ②すぐに補修しなくてもよい資料を書架に戻す



図書館の一般的な地震対策

- ・資料はなるべく棚板の奥に置く
- ・資料と床の間隔を12~15cm以上あける
- ・大型の本は書架の下の段に置く
-

→国立国会図書館では？

制約のある中で、現実的な対策を



参考文献

- ・『国立国会図書館年報』平成22年度、平成23年度
<http://www.ndl.go.jp/jp/publication/annual/index.html>
- ・大竹茂、山口佳奈、中島尚子 「東日本大震災による
国立国会図書館の資料被災状況および破損資料の
補修について」
『文化財保存修復学会研究発表要旨集 第34回大会
in 東京』 文化財保存修復学会 2012 pp. 120-121